

## 2025年5月実績概要（メモ）

（2025. 6. 18）

定修時期の差等もあり、各誘導品の生産は樹脂類に対して化成品や合成ゴム類の生産へ偏重気味となる。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 420,100トン

前月比 ▲ 6.8% (▲30,600トン)  
前年同月比 + 5.8% (+23,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	-
定修要因等	▲ 7.7 %	+ 11.2 %
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 2.4 %	▲ 5.4 %
生産増減率	▲ 6.8 %	+ 5.8 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月78.6% → 当月76.8% ← 前年同月80.4%

定修プラント：前月なし → 当月1社1プラント ← 前年同月3社3プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数増加があった一方、定修規模差等から、HDPE、PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの10品目がマイナス。EO、EG、SBR、BRなどの7品目はプラスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から、PP、塩ビ樹脂、EO、EG、BRなどの8品目がプラス。HDPE、塩ビモノマー、AN、SBR、トルエン、キシレンなどの9品目はマイナスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数増加があるものの、定修規模の増加もあり、HDPE、PP、PSはマイナス、LDPEのみは微増となった。

前年比は、LDPEは稼働率要因、PPは定修規模の縮小からプラス、HDPE、PSは定修規模差などからマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費のマインドは、暮らし向きの面や雇用環境、耐久消費財の買い替え時期から見て、前月に比べて好転が見られるが、マインドは弱含みの状況が続いている。国内の生産活動は、一進一退の状況が続く中、5月の予測では情報通信機械、生産用機械などの業種で増加が見込まれており、生産活動のトレンドはやや上向きの傾向が見られている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、連休に伴うユーザー側の稼働日数の減少もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナス。前年比でもいずれもマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、フィルム等の包材関係は、前年比でポリオレフィン3樹脂のほか、PSもマイナスとなった。包材以外の分野では、当月は、前年比でLDPEの中空成形分野、PPのフラットヤーン、PSの電機・工業用など限られた分野のみの増加となった。

ハ) 輸出

米中の関税交渉の行方を見極めが続く中、中国産の最終製品等の東南アジアへの流入が新たな貿易摩擦を生む事態も生じており、輸出環境の不透明感が増している。前月比は、LDPE、HDPE、PP、PSでマイナス。前年比でもLDPEはマイナス、PP、PSは前年の水準が低位であったため比較上でのプラスに留まっている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP、PSは増加、HDPEは減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PSはやや上昇、PPは横這い、HDPEは低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPEは高め、PP、PSは幾分か高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LDPE	+ 19,900	3.5	3.6
HDPE	▲ 5,600	4.8	4.4
P P	+ 12,200	3.1	3.1
P S	+ 3,100	1.9	2.1